

東京芸術大学との共同研究をもとに 「帰宅を促す音楽」の制作に着手

USEN-NEXT GROUPの株式会社 USEN（本社：東京都品川区、代表取締役社長：田村公正）は、国立大学法人 東京芸術大学（所在地：東京都台東区、学長：澤和樹）との共同研究により得られた成果を基に、「帰宅を促す音楽」の制作に着手いたしましたのでお知らせします。

USENでは、オフィスワーカーのメンタルバランスを整えることを主眼としたオフィス向けBGM『[Sound Design for OFFICE](#)』を、2013年より展開してまいりました。『Sound Design for OFFICE』では、社会的に関心が高まっている働き方改革の一環として、残業時間を削減するために、終業時間をコメント放送で気付かせるアプローチをしてまいりましたが、今回の取組みは音楽で気付きを与えることは別に、終業する気分を促す効果のある音楽についての制作を目指し、東京芸術大学と共同研究に至りました。

東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科の亀川徹教授、丸井淳史准教授と実施した本共同研究では、帰宅を促す音楽の音響的な特徴を明らかにする事を目的として以下の手順で実施しました。

- 1,900人のオフィスワーカーにWEB調査を行い、終業時刻における仕事の捗り具合などによる、いくつかの状況を想定し、各状況の心理状態について心理測定尺度を用いて分析
- 2,得られた心理状態の指標とイメージが合致する既存楽曲をUSENの制作スタッフが選定
- 3,選定された楽曲の整合性を、東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科により評価、検証

尚、楽曲は、本研究結果を踏まえて、USENで作曲、編曲、収録を行い『Sound Design for OFFICE』のサービス開始5周年の期間中である2019年1月までに発表する予定です。